

平成 22 年度 大学職員情報化研究講習会（応用コース）

第 1 分科会第 4 グループ 検討報告

■メンバー

- ・神戸学院大学 本多美穂（学生支援グループ）
- ・北星学園大学 田守智恵子（学生支援課）
- ・龍谷大学 高田文彦（情報メディアセンター事務部）
- ・立正大学 塩山貴弘（大崎学事課）
- ・立教大学 饒村良司（メディアセンター）
- ・日本福祉大学 赤松伸一（学事課）
- ・日本事務器 高橋修（事業推進本部）

■検討のテーマ

「学生カルテ・ポートフォリオの円滑な導入の為の具体的方策」

■検討の要旨

はじめに、各大学の現状報告、昨年の講習会報告資料も参考にしながら意見整合をおこなった。各大学とも、統一あるいはシステム化されたカルテおよびポートフォリオシステムは導入されておらず、検討中あるいは限局的（キャリア支援部署が多い）な導入にとどまっていた。

次に、検討・限局的導入が、具体的にどのような位置づけによって行われているのか議論をおこなった。議論の中で明らかになったのは、学生支援というマクロ視点によって推進されており、具体的な活用手法や成果目標、ひいては、どのように学生支援をするかという導入目的自体が明確化されてないという点であった。これが、導入に際してのハードルとなるとともに、導入した際も効果的に活用されない要因となっていると推測された。

上記の議論を踏まえ、導入後に、学生カルテ・ポートフォリオが有効に活用されるための導入手法について検討テーマとすることとした。

■導入手法の検討（各大学の導入目的）

検討に当たって、まず、各大学が学生カルテ・ポートフォリオ導入すると仮定した場合に、どのような導入目的が想定されるかを出しあった結果、以下のような目的が挙げられた。

【集約された「導入のための目的」】

- ①問題傾向のある学生、うつや引きこもり傾向のある学生をどう発見して指導していくかを検討するため。
- ②部署ごとに点在する情報を集中させることで、学生を待たせない「ワンストップサービス」を実現し、学生サービスの向上を狙うため。
- ③学生は電子化に対して強くなってきており、コミュニケーション力を高めるための手段として活用するため。

■導入手法の検討（導入シミュレーション）

導入目的については、一つに集約されるものではなく、多様である点が明らかになった。導入のための具体的な手順を掘り下げて検討するために、特に学生カルテに絞り、ケーススタディをあげて導入までのシミュレーションをおこなうことにした。シミュレーションの結果、下記の手順が必要であると整理された。

【学生カルテ・ポートフォリオシステム導入をおこなう場合の手順】

STEP 1 導入目的の明確化：

⇒システム導入する目的、導入することによってどのような成果を上げるのか、どのように使用していくのかなどを明らかにする。

STEP 2 目的達成に必要なカルテの仕組み検討：

⇒目的を達成するシステムをつくる場合に、どのような機能、どのような情報が必要なのか整理する。

STEP 3 検討した仕組みの実現可能性・有効性の検証・整理：

⇒STEP 2 で明らかにした機能・情報が、実際に構築可能か、また、収集可能な情報なのかを検証し、実現可能な仕組みとして整理する。

STEP 4 構築したシステムの運用課題検討

⇒想定したシステム導入した場合に、運用面でどのような課題があるかを整理・検討する。

STEP 5 導入

⇒STEP 3、STEP 4 を繰り返した上で、仕様・運用を固め、設計、導入へ。

■導入手法の検討（推進体制構築）

STEP 1～5 を適切に行うには、実施までの体制（組織）、実施後に PDCA サイクルがしっかり機能する体制（組織）が必要であり、その推進体制について下記のように整理した。

【導入にあたっての推進体制】

- 1、目的を明確に打ち出すために → 経営陣による意思決定
- 2、どのようなシステムにしたいか → 関係部署による設置ワーキンググループ（WG）
※学生・就職・法（セキュリティ）・情報・教員担当
→ WG で仕様が決まり次第、システム業者選定
- 3、PDCA のための継続体制 → 設置 WG を運営委員会へと移行し、継続化

■最後に

学生カルテ・ポートフォリオを導入するにあたっては、教職員が共通の認識で使用していく必要がある。基本的には、多様な場所から集まる情報の蓄積によって成立するシステムであるため、一部の部局や特定の教職員のみによる活用では、その効果は発揮されない。導入にあたっては、学生を見守り、支援していくというしっかりと意識と姿勢を明確にしていかなければならない。